

17

第41回臨時委員会議事録

1. 日時 昭和31年8月21日(火)午後1時50分～5時15分
2. 出席者 正力委員長、石川、藤岡、有沢、各委員
斎藤政務次官、篠原次長、佐々木局長、法費局長、
島村政策課長、藤波管理課長、荒木調査課長、堀助成
課長、鈴木アイソトープ課長、井上調査官、田中、倉
本、田宮、松友、黒田、土境、山崎、小池、
3. 議題
昭和32年度予算について
4. 配布資料
 - (1) 昭和32年度原子力予算概算総表
 - (2) 原子力開発利用長期基本計画(案)
 - (3) 原子力委員会からの「原子力開発利用長期基本計
画策定上の問題点に関する日本学術会議への諮問」
についての回答(沖-次案)
 - (4) 原子力開発長期計画に対する意見(通産省)
(1)

c111-001-020

- (5) 昭和31年度原子力関係留学生受入交渉進捗状況表
- (6) 第39回臨時委員会議事録
- (7) 第40回定例委員会議事録

5. 審議、決定及び報告事項

前回に引続き32年度予算について説明及び検討を行い、前文その他について修正を行った上委員会として内定し、参事会に諮った上正式決定とすることになった。

6. 議事経過

◎昭和32年度予算について

先づ「昭和32年度原子力利用関係予算調整方針」を朗読、説明を行い、次いで

- (島村) 前回指摘された点は直した。
- (藤岡) 濃縮ウランの基礎研究がぬけている。
- (藤波) 原研の所に入れたが----ウランの濃縮に関する基礎的調査を行う、と入れてある。それでよいか
- (藤岡) よいだろう。

— 次いで島村政策課長より、比較対照表を説明 —

- (斎藤) 調整方針の所の末尾は問題だ。

(2)

- (佐々木) とつたらよい。
- (藤岡) とつたらそれでよい。
- (斎藤) とらなくても弱めて直したらよい。
- (佐々木) ぬこう
- (有沢) ぬいてよい
- (島村) この文章は国会に出すときだけつける。
- 次いで委員会、局の項について説明 —
- (佐々木) アダツシエは庁の方に入っていない。
- (法貴) 原子カプロパーのものは入っていないということだ。もう一度念を押すか----
- (佐々木) それなら結構で、
- (有沢) 内外資料とは----
- (島村) 国内的には各省庁との連絡会をやり資料を送ってもらう。これを外国に流す。又情報交換で資料が外国からくるそれを国内に流す。
- 次いで藤波管理課長より原子力研究所の項を説明 —
- (正力委員長退席—2.50)
- (藤岡) 外人招へい費は原価を下げ、期間人数をふやした方がよい。
- (石川) 開発試験費の所、固産2号炉のことはやめたら

(3)

よい。

(藤波) そうしよう。

(有沢) 500人になるというが---

1年間に一人にそんなに人がとれるか。

(石川) 大学の先生に弁当持ちで来てもらったら---

(法貴) 年平均400人でうち80人か、アイトー
プ関係だ。

(佐々木) 事務系統が半分占める 突っついて見たら東
海村の研究所自体でも相当いる ネットの研究者
は半分位だ。

(藤波) 研究部関係は350人位だ。このうち事務がい
るので中味は200人位---

(有沢) 東海村の規模は、

(法貴) 将来は1200名位---

(藤波) 事務は来年度はふえるがあとはそうふえない---

(有沢) それなら結構だ。

— 次いで島村政策課長より今後の取扱について次のよ
うに諮り諒承された。

(島村) 今日は一応内定という所にもって行きたい。23
日国会合同委員会、24日に参与会に諮り 次に委

(4)

員会決定として25日府議決定。28日に総理府
に説明する予定だ。

文章については十分検討する。

次に長期計画の段取りを伺いたい 数字は全部
抜いて 指摘された点は更に検討してまとめた。

石川委員の出張までに一応内定したという段階
までもって行きたい。

24日の参与会にはかり 意見を伺い、意見あ
れば更に訂正したい。

この案は一応局の案として参与会にかけること
を諒解されたい。

24日に残った意見は文書で出していただいで
9月6日の定例委員会で検討し更に修正し10日
頃には決めていただきたい。

— 諒 承 —

(藤岡) 参与会までに新しい参与の任命は固まらうか。

(島村) 固まらわない。

— 次いで藤波管理課長より公社の項を説明

(佐々木) 公社は実体については まだ大蔵省と話合い
がついてない。

(5)

(有沢) どうして継子扱をするのか。

(佐々木) 鉱石があるかないかわからないのに中間試験をやるのは早いというのが大蔵省の考えだ。結局妥協したが大蔵省は母体だけつくるという考えだ。

(有沢) そういう一般的なことを前文にかいておく必要がある。

— 次いで前文の訂正箇所につき文章を説明

(有沢) 原子力予算がどこまでふくれるかわからないという心配がある。そこをどうするかだ。

(佐々木) 外国のように1,000億にも2,000億にもならないということだ。

(有沢) “重点”の所に大ざっぱの数字が入れられないか? そうすればはっきりする。

(島村) 一寸難しい。

(有沢) 項目別にわけることができないかということだ。概略でよいが-----

(島村) 理屈はそうだが実行は不可能だ。

(有沢) 実質的には今度が委員会として初めての予算だ。きっちりしたものを作りたいということだ。

(藤岡) 重要項目を5つ6つでよい。

(6)

全部を含むとしないで-----

(佐々木) 去年は物の予算と人の予算と両方作った。そういうものを作ったら-----

要するに一番疑問を持たれるのは、バランスがとれているか? 縦の系列がどうか? 実行ができるか? この三点が一番重要だ。

攻め手を一つ作っておいたらどうかという感じだ。

(島村) それは当然やらねばならない。

(有沢) それをやれば来年度の予算の性格がはっきりすると思う。当初はこれこれの経費がふえるのだという主張ができる。毎年毎年そうふえるのではないということをお願いしたい。そういう思想の問題だ。ある程度のものでよい。

(島村) 今すぐには出来かねる。予算全体をバラバラにしてやるには可成り難しいことになる。項目に従った金額を入れるということはすぐにはできない。ただし今年100億をこしている。所が今の予想では、これが認められれば来年は3倍にはならぬ。2,3年後には横すべりになる。毎年2.3倍

(7)

になるという印象を除くためには方法があるう。

(佐々木) 要するに説明材料だ。

(有沢) 10年間に原子力工業を確立するというような見透しをどこかに入れたらよい スピードアップする考えをもっているから緊要性が出てくる。60年代に入れば確立するということ、そのために短期間にレベルアップするには始めのうちに金がかかるぞという----- 単なる来年度の予算のことだけでなく-----

(島村) その主旨は前文に入れて見たい。

(藤岡) それを書いてほしい。

— 次いで堀助成課長、鈴木アイントロップ課長より試験研究機関の項目について説明諒承され

次いで島村政策課長より前文の訂正箇所につき文案を朗読 検討を加え諒承された。

又 各省関係行政費は保通した方がよいがその旨附記たい旨諮り諒承された。

以上で32年度予算は一応委員会で内定され 参与会に諮った上正式決定を行うこととされた。

5時 / 5分散会

(8)